

<b>金融論B</b>		<b>講義</b>	<b>教授 田中 秀臣</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネスコースの専門 選択科目 会計ファイナンスコースの 専門選択科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23220206</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

貨幣と金融の関係、銀行などの金融システムの役割、貨幣の供給と需要、それらと中央銀行の役割の意味を把握し、それをもとに現実の日本や世界経済の中での金融の重要性を理解していく。金融論の基礎から日本や世界経済の現実を理解するための知識を、基礎を踏まえてさらに深めていくことが、この講義の目的である。ただし予備的な知識はいらぬように配慮し、毎回自己完結的な講義を行う。必要な知識はその都度講義の中で丁寧に解説する方針である。できるだけ日常で話題になる経済的な出来事との関係を意識して講義をすすめていきたい。就職や将来の社会人生活のための必要不可欠な金融の知識の提供、そして現実経済のダイナミズムを理解することが、本講義の最終的な目的となる。

### 2. 授業の進め方

指定した教科書などを参考に内容を時事的テーマもからめてわかりやすく説明していく。初心者でも予備知識なく国際金融の理解が深まるように講義は進行していくだろう。

### 3. 授業計画

1. 現在の日本の金融政策の課題	9. 成長戦略とサプライサイド経済学
2. バブル経済から「失われた20年」(90年代)	10. 成長戦略と企業投資
3. バブル経済から「失われた20年」(21世紀)	11. コーポレート・ガバナンスとM&A
4. 1970年代から現在までの金融制度の発展	12. 地域経済と中小企業の活性化
5. 異次元緩和策と伝統的金融政策	13. グローバリゼーションと最新の日本の経済政策
6. 金融政策の一般均衡理論とトービン	14. MMT (現代貨幣理論) 入門
7. 金融政策の一般的均衡理論の応用	15. MMTをめぐる論争とこれからの金融論の可能性
8. 金融市場と非対称情報	

### 4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

### 5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験実施後、レポートについては提出後に、標準的なレポートの書き方、求められたポイント、高得点のためのコツなどを解説する。

### 6. 授業における学修の到達目標

金融論の理論と制度、歴史の基本項目について、基礎知識をもとに実際の経済を見る目を養い、さらに自分で政策評価をすることができるレベルまで育成していく。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組み姿勢を重視する(50%)。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価(50%)していく。

### 8. テキスト・参考文献

講義は以下の教科書を主に利用して行う。ただし購入する必要は特にない。

藪下史郎『教養としてのマクロ経済学』(東洋経済新報社)

#### **9. 受講上の留意事項**

特になが、熱意をもつて金融論の講義を理解しようとする姿勢が重要である。また現実の経済の話題に常に注意を払ってほしい。疑問や議論があれば積極的に質問してほしい。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。